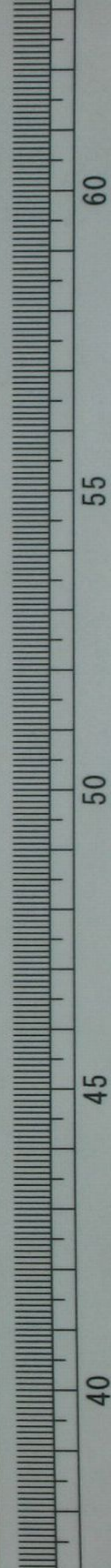




特 別
14
3157
41(1)



14
3157
41
01

序 

一日東巖山乃首尾をめぐりて
 根岸の森北かつ真峯徑
 傳ひぬ山吹乃清き流り法
 日くらしの傳りたる石也
 画室を許す主人を外にけり
 帰杖も福ありしを念ふ
 幸多子子咲茶もまじりて

此の巻に、修し平に、新し揚し、
華しうし、槐安國と、か、の、ま、る、
人、の、ま、る、し、く、く、く、く、く、く、く、く、
水、解、傳、乃、人、物、と、し、り、り、り、り、
画、う、く、此、あ、り、く、く、く、く、く、く、の、快、を、
製、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
冊、中、の、ら、り、り、り、り、り、り、り、り、必、
この画、初、の、ま、る、く、く、く、く、く、く、く、

畫、肆、何、し、是、と、持、の、ち、り、り、り、り、
世、の、廣、く、く、く、く、く、く、と、祿、く、く、
孫、の、孫、く、く、く、く、予、の、其、孫、く、く、
吾、方、外、の、友、く、く、の、孫、く、く、く、く、
及、く、く、の、事、と、採、く、く、の、事、

雲中菴、夢、多、六、



安永六年正月

凡物乃化す。や石の蒸となり華
 名糖餅と稱るるよく化すといへ
 亦小鳥山石炭なるもの画はあき好
 こと年何里その年亦よく化す
 亦羅美象ふさげとい婦との畜し
 さ幾よある山立伝を著し世人とす
 亦里しはと古國のる鬼抱けは據す

意をかへ密に補ふを辨何素らや
んとして梓より詩せんあやとそふ
授ふに玉く六事とあり一陰陽風
雨晦明とまきて日月の其帰る身
書圖を完夜新と致し己ふ
前編三冊集めこころにのきき序
を平みもとむる燕の依歌の女
をお渡あともむるしき程と辭しおと

は行堂、惟方氣神をかゝるる家
のいましめ残ももる人よ終へるる勝
を遊る乃おとむひあはれも一何
さる乃こ

あゝ有詠集己未年京都信士
紫陽主人老替帖



禰

左特缺篆



○あしな

○天狗

○やまご

○山うむ

○山ワッハ

○犬神

○白ちご

○祢あま

○川太郎

○かいらそ

○あうなめ

○たぬさ

○かほいそら

○あききり

○きつひ火



木魁

百年の樹よ
神ありてかたきを
河よは流るるよ



○ 幽谷郷音



○ 天竺



○ 山姥 まうを



○ 山童 やまご



○ 猫ねこ
ま



○ 白しろ
見み

○ 大おほい
神かみ





○ 頼
かいらそ



○ 河童
かつこ
川太師



○ 綱つな剪きり



○ 穴あな躬まが奇かしら



上ノ
下

○ 狐火
きつねび



上
下

書村新治卷